

令和7年度 第2回安曇野市障害福祉運営委員会、
第2回安曇野市自立支援協議会の合同会議 会議概要

- 1 会議名称 令和7年度 第2回安曇野市障害福祉運営委員会、
第2回安曇野市自立支援協議会の合同会議
- 2 日 時 令和7年12月4日 午後1時30分から午後3時15分まで
- 3 会 場 全員協議会室
- 4 出席者 内田委員、馬淵委員、奥永委員、平林洋樹委員、高橋委員、小林委員、
尾曾委員、吉田委員、澤田代理、平林学委員、加科委員、野村委員、
竹澤委員、西澤委員、中村委員、小林代理、望月委員、山崎委員、小穴委員
(株)サーベイ・リサーチセンター静岡事務所 北崎聖二所長
- 5 事務局(障がい者支援課) 高橋恵課長、高橋奈津子課長補佐、関係長、宮澤係長
百瀬係長、上條係長、宮入社会福祉士、藤松主査
- 6 公開・非公開の別 一部非公開
(協議事項のうち個人情報を含む内容は、安曇野市付属機関等の設置及び運営に関する指針6に該当)
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和7年12月16日

協 議 事 項 等

【会議概要】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 第7期安曇野市障害福祉計画・第3期安曇野市障害児福祉計画の進捗状況について **資料1**
 - (2) 第8期安曇野市障害福祉計画、第4期安曇野市障害児福祉計画に係るアンケート調査について **資料2**
 - (3) 災害用支援バンダナのデザイン及び配布方法について **資料3**
- 4 その他
- 5 閉会

【協議事項】

- (1) 第7期安曇野市障害福祉計画・第3期安曇野市障害児福祉計画の進捗状況について **資料1**
 - ①事務局より説明
 - ・異議なし。承認。
- (2) 第8期安曇野市障害福祉計画、第4期安曇野市障害児福祉計画に係るアンケート調査について **資料2**
 - ①事務局より説明
 - ・令和8年度は第8期安曇野市障害福祉計画、第4期安曇野市障害児福祉計画の策定の年となる。実績や目標値の見直しの年となる前に、今年度は障がい児(者)及び障害児福祉サービス利用者から回答頂き、計画策定に反映させていきたい。
 - ・対象者数は2,000人。(18歳以上:身体障害者1,100人、知的障害者230人、精神障害者510人。18歳未満の方は、サービス利用者を含め150人)回収率は65%を目標。

・アンケート調査内容は、事務局でも精査しているところであるが、委員からの意見を参考にさせていただき決定していきたい。

②質疑

○アンケートの目的の周知について

《委員》

・通知分のアンケートの目的に「障がい者の心身の状況、その置かれている環境その他の事情を正確に把握して、計画に反映させることを目的としてアンケート調査を実施する」を追記してほしい。障害者総合支援法の趣旨を盛り込む。検討資料だけでなく望んでいることが計画に反映されるという意味合いである。

○対象者について

《委員》

・対象者は、手帳所持者の1/3となっている。調査の機会を全員に提供すべき。20年間アンケート調査がされてこなかった。手帳所持者6,000人全員の意見を吸い上げ、計画に反映してほしい。本来であれば3年ごとに積み重ねてアンケート調査をするべきである。

・アンケートの分析、整理はどなたがするのか。

《事務局》

・対象者は2,000人の予算で計上している。統計学上、全員を対象とする必要は無く、2,000人を抽出すれば大体の統計的な意見は反映できるということで計画している。

・分析は（株）サーベイ・リサーチセンターへ委託している。

《（株）サーベイ・リサーチセンター》

・対象者について、統計学的に、母数（障がいを持たれている方）からいくら抽出されることよりも有効回収数が標本誤差に影響する。有効回収数が1,100件あれば最大の標本誤差が±3%以内に収まる。母数がいくつでも変わらない。回収率は65%を目標とし、1,300件回収出来ると見込んでいる。

・お礼兼督促状を発送し、回収率の向上に努める。標本誤差が一番大きいイエスとノーの2択の回答で半々になった場合でも、信頼度95%で誤差が±3%以内に収まる。母数は2,000件で大丈夫であると考えている。

・集計、分析は、単純集計とクロス集計を用いる。性別、年齢、障がい種別をクロス集計し、課題、今後の施策の意向を障がい種別ごとにクロスし、属性によつての要望、課題をまとめ事務局へ提出する（デモクラティック分析）。その後の施策は市で考える。元になる集計をする。

《委員》

・平成18年の調査では65歳以下全員を対象としていた。統計学的にやることと、実際に生の声を精査、整理、分析する過程で障がい支援に関わる方が生の声を聴くことが大事である。個別の文書として書かれることが沢山出てくると思う。その中にどの様に思われているということを当事者家族の声として、それを深めて、思いを馳せて深めることがこれからの障がい支援に関わる者として、とても必要なことだと思う。理解を深めるための良い機会だと思う。アンケート調査の対象は全員にお願いしたい。

《事務局》

・アンケート調査はあくまでも全体の政策反映の部分で実施させていただきたい。個別の課題や生活課題は、相談を受ける中で行政、障がい者基幹・総合相談支援センターや相談支援専門員等が、個別課題を拾い出し、事例検討を行う中で地域課題として自立支援協議会に上げていく。それをどういうメンバーでどの様に検討していこうかという仕組みで検討する仕組みを作らせていただいている。この部分については、仕組みづくりを行いやっていかなくてはいけないが、今の段階で出来ることとして今年度は2,000人のアンケートを実施するという事で考えている。

《委員》

- ・できれば安曇野市民全員から集めれば良いと思うが、限られた予算で人数もいない中であればこのままでよい。
- ・思いはとても分かるが、市の提案で良いのではないか。
- ・思いはよく分かる。当事者でないとよく分からないと思う。先立つものは予算なので、これも致し方ないと思う。沢山あればあった方が良いと思うが仕方ない。
- ・相談の中で声を聞いていただき、アンケートは2,000人で良いと思う。
- ・今回は2,000人とし、個別に色々な悩みなどある方がいらっしゃるの、その方についてはしっかりまた別のところで意見をまとめていただきたい。
- ・2,000人でデータの価値、精度が上がらないということであれば2,000人で良いと思う。20年ぶりの調査ということで、せつかくなら大々的にということはあるが、まずやってみてその結果を見て次回以降どの位の頻度でやるのか、対象をどうするのか等、まずこれをやらないとその先の話はできないと思う。今回は予算の都合もあるということ、2,000人で良いと思う。
- ・2,000人ということで精度の問題が無ければ良いと思う。
- ・そのような思いを伝えたいというご意見があることは受けとめた。相談支援専門員として、そういった思いがあることを活動の中で反映させて今後も取り組みたい。
- ・アンケートで無記名というところで書ける意見はあると思うが、相談員の方で努力して思いを汲み取っていただくことで良いと思う。
- ・統計を取る場合の統計学もあったと思う。思いはあるかもしれないが、やはり全ての人に聞いても回収ができない部分もあると思うので、2,000人で十分かと思う。
- ・今回は20年ぶりであればできたらより多くの意見を集めてもらった方が良いと思う。
- ・ごもっともだと思ふし、理念もすごく素晴らしいと思う。ただやはり予算の問題があるので、今回は2,000人で良いと思う。実施してみて、自分の声も反映して欲しかった等のご意見が多ければ、その時考えてきちんと予算を何年か後に取った上で人数を増やすとか、対策を変えていけば良いと思う。
- ・身体障害者の中には、下肢や上肢、体幹、内臓の方が全て入っていてとても幅が広い。身体障害者でもとても軽い人、足が不自由なだけの人、車椅子に乗らなければ生活ができない人、ペースメーカーとか心臓の方に病気がある方等色々いらっしゃるの、そこら辺をどのように考えているのか。本当に無作為に抽出して、アンケートをお配りするのであれば、2,000人は少ない。届かない方もいるかもしれない。
- ・どんな調査を行うかという手法においては原案で受け止めたいと思う。どんな調査をするという点においては今回出された意見を貴重な意見として認識する。
- ・市で内容を精査し、統計学的に2,000人で良からうということでここまで来ているので、抜本的なところから考え直すのは時間が足りない。統計学のプロでいらっしゃる業者に入っていていただいて実施するので、今回に関してはこれで進めるので良いと思う。1事業所としては、各障がい者がバランスよくご回答いただけるのか、また今いただいた意見は市や協議会にきちんと個々の悩みや課題が挙がっていないのではないかと、いうところが言葉になって出てきていると思う。またこれは別の論点や観点で、協議会等で話し合っていくべきではないか、分けて考えた方が良いと思う。

○その他

《委員》

- ・「暮らしについて」。収入について聞いていない。障がいのある方は一般的に低所得と言われているが具体的にどのくらいなのか。それぞれの障がいによっても違うし、把握することで次のその計画に活かすための大きなポイントになるのではないか。
- ・「医療について」の質問が無い。医療を受ける頻度はどの位か、医療費はどの位か、医療を受ける時に困ったこと不便なこと、医師や看護師にしてほしいこと、して欲しくないこと等。当事者や家族の考えや思いを把握して生かしていくため追加してほしい。

・「暮らしについて」。現在どこで生活をしていますかの項目の中で、自宅を選んだ場合に誰と暮らしていますかはあるが、自宅は誰が所有しているのかを聞き取った方が今後の金銭的な見通しを立てやすい。身内の所有で家賃がかからないのかそれとも借りていて家賃を継続的に払っているのかで、自身の財産状況がかなり変わってくると思う。今後、金銭的に困りそうな方を吸い上げられると思う。

・18歳以上の問13「成年後見制度について」。ここで初めて成年後見制度を知っている方もいるかもしれないので利用してみたいや説明を聞いてみたいという項目を追加欲しい。成年後見制度なので18歳以上しか項目が無かったが、未成年者を対象とした未成年後見という制度もあるので、未成年者の方に未成年後見制度についての項目を追加していただいても良いと思う。

・「権利擁護」。嫌な思いしたことがありますかの選択肢に家庭内が無い。家庭内は入れた方が良いと思う。18歳未満、以上両方。

・18歳未満の「相談先」に医療機関や福祉サービスの支援者がいないので専門職を入れてほしい。18歳未満の方の「保護者の方にお伺いします」で、子どもの将来や子どもの就職等、子ども目線の課題が悩みですという項目しかない。親が子どもに対してどう接したら良いか分からない、どうやって子育てしたら良いか分からないという設問が無い。このような内容で受診される方もいるのでお子さん本人がどうこうよりは親が子どもに対してどうか、親の困り事の項目も入れていただくと良いと思う。

・18歳以上の問30。「福祉サービスの利用」の項目はあるが福祉サービス以外のあらゆるサービス（社協、成年後見、インフォーマルな支援）が一切書かれていない。アンケートの趣旨が政策に生かすということだが、福祉サービス以外のサービスも項目として入れてみてはいかがかと思う。

《事務局》

・多くのご意見に感謝する。

・他のご意見要望等は12月10日（水）までにいただければ検討させて頂く。

（3）災害用支援バンダナのデザイン及び配布方法について 資料3

①事務局より説明

・字体、文字の大きさ、バンダナに入れる文言について意見をいただきたい。本日決定し、来年の1月末には出来上がり広報に掲載し配布する。

・配布対象は、市内の視覚障害者201人、聴覚障害者202人、及び指定避難所。

《委員》

・「支援が必要です」はとても大事だと思う。一見分からない障がいの方も活用できる

・災害時に書く物があるか。

《事務局》

・避難所にはマジック等がある。空欄のところは避難所で記載して使用することを考えている。

・空白には他市町では「手話ができます」等を記入いただいているところもある

・字体はユニバーサルデザインの文字で見やすいものを決めさせていただきたい

《委員》

・事前窓口配付であるため、希望した方は自宅で保管し、いざという時に持って来てくださいということ。空欄に体のことなどを書いて自宅でカスタマイズすれば良い。対象者全員への配布を目指していただき、きちんと説明が行き渡れば文言は3つで十分であると思う。体の障がいの方は空欄に体のことを書いて備えておいてもらえば良い。

・配布された資料3のパンフレットには4つの文言が入っているので、折った時に前に来るのがどれかということで分かる。このまま作り配布すればよいのではないかな。

・この黄色いバンダナの趣旨については周知されているのか。災害時に利用するという周知がされているのか。知っていないと意味がないため、周知についても合わせやった方がよい。

《事務局》

・配布の際に併せて広報誌やホームページに載せて周知したい。
・配布した市に確認をしているが、実際に災害が発生して使用したかは確認していない。「目が不自由です」と「耳が不自由です」は入っているが、他に書いてある文言が多少違っている。

《委員》

・全国で同じ黄色のバンダナが利用されていれば良いと思う。
・災害時は混乱している。視覚障害と聴覚障害の情報伝達が難しい方に使ってもらおうのかと思った。目的がしっかりしていれば、実際に災害があったときに混乱しないと思うので検討していただきたい。

《事務局》

・見た目で分からない視覚障害や聴覚障害の方が、このバンダナで支援が必要であるということを周りに伝達できる目的で、今回の配布対象が視覚障害と聴覚障害の方としている。今回配布した中で色々なご意見をいただくこともあると思う。その意見を反映し、今後増刷するのか、別の障がいの方も対象にしていくのかは検討していく必要がある。見れば障がいがあり、支援が必要だと分かっていたらいいことで、視覚障害と聴覚障害の方に配布を考えている。

《会長》

・色は黄色、文言は「支援が必要です」「目が不自由です」「耳が不自由です」の3つ、字体は皆さんが分かるようなものでお願いし、500枚作ることでよろしいか。

《委員》

・承認。

【その他】

(1) 障がい者週間について(12月3日から9日まで)

《障害者週間に合わせた理解促進・啓発講演会の開催のご案内》

- ・日時：12月6日(土) 午前10時から11時30分まで、
- ・場所：市役所4階大会議室
- ・講師：青木 辰子さん(パラアスリート選手)
- ・演題：講演「スポーツを通じ強くなる」
- ・参加費：無料

《展示》

- ・障害者週間中に市役所1階で就労継続事業所による展示及び販売会を開催。

(2) 次回開催日 事務局より説明。

令和8年2月26日(木) 午後1時30分から

※会議概要は、原則として公開します。